

### 第3回スキル標準の在り方に関する研究会 議事要旨

日時：平成26年3月25日（火）10：00～12：00

場所：独立行政法人 情報処理推進機構 15階委員会室1・2

出席者（五十音順）：

岩丸氏、宇野氏、笈氏、島田氏、下村氏、高橋氏、田口氏、田丸氏（大原氏代理）、角田氏、平田氏、平松氏（古田氏代理）

#### 【事務局】

経済産業省：江口情報処理振興課長、小池地域情報化人材育成推進室長、守谷課長補佐、小池課長補佐、平山課長補佐、松崎係長

情報処理推進機構：田中理事、秋元HRDイニシアティブセンター長、日向グループリーダー、遠藤調査役、木村研究員

議事： スキル標準の活用に関する今後の取組方針について

#### <協議会について>

- 案では、スキル標準の枠組みの整理の改版の部分この部分だけ民間主体、業界団体となっているが全体の枠組みからすると、協議会で一本化してまとめたほうが良いと思う。
- スキル標準協議会の位置づけですが、協議会が開催されるが、協議の結果は誰がもって、最終的に何につなげるという位置づけになるのかは今後の議論かもしれないが、書かないと協議会だけあってその後が機能しないと思う。この協議会で決まったことを誰が受けて何の最終結論をどうフィードバックされるか、その循環を最初に記載しておいたほうがいいのではと思う。
- セキュリティ業界の中には教育ビジネスがある。それに対してスキル標準協議会はどういう立ち位置で環境を持っていくのでしょうか。アウトプットは誰が利用するのか。それをぜひこの機会に考えて頂きたい。
- 協議会がレベル感を合わせないと、二人三脚と一緒に足の遅いほうに合わさってしまう、要するにどっかの技術に尖ったものがあったとしても、それに関与する技術が低いとそこに引きずられる。全体をあげるという相互監視の機能もある、他のところが弱いのではという議論ができないと全体水準が上がらない。そのような機能を持たせないと、またこの会議を10年後にやらなきゃいけないと私は思う。
- 協議会の内容をいくら読んでも腹落ちがしない。ストレートに言うとそれぞれスキル標準に関わってきている団体や人に気を使っていて、最初に言っていた話とあまり変わっていないと見える。
- ITSSのときはそれぞれのプロフェッショナルコミュニティの横串がとれなかった、SSがいくつかできるなかで、SS間で横串がとれずにきてしまっていたという問題があったが、今はCCSFという形で落ち着いてきたので良い方向に向いている。この協議会ができた所では、初めから横串を刺すのがポイントになる。前も作っていただいた資料があるが、セパレートしたものではなくそれぞれの関係をおもてに出して資料を作

ると、ただの縦割りとか横割りとかでなく、連携を持ってやらないといけないというところが出てくると思う。

- 前回配られた資料に4称現のすごくいい資料が作られたので、こっちの考え方をベースにして、必ずしもジャストフィットしないかもしれないが、たとえばデファクトとか時代に則したのを議論するレイヤーと、普遍的なものを議論するレイヤーでどういう役割を誰がやるかを書いたほうが分かりやすいのではと思う。
- 人材の流動性や社会構造として併せて考えないと、スキルだけを単体で考えても空回りする可能性があるので、国系のみなさんが社会構造はこうあるからこのスキル標準がこう使えるという方向へもって行かないといけない。それは合わせ技で考えていかないと、道具だけでなく、使われるシーンや土壌の情勢を合わせて、協議会もしくは国あるいは別の議論の場を考えていく必要がある。
- 人を活かすための社会も考えないといけない、国としてもどこかで考えないといけない。社会構造や人材の流動性や国の方向性も合わせて検討する場を協議会とどう結びつけるのかということです。いいスキル標準やCCSFができてもしようがないのでは意味がないということです。
- スキル標準、この会議も含めて、何を目標としているのかというのがどんどん曖昧になっていて、とりあえずなんかやるための組織を作りましょうという事務局案がそう見えてしまう。
- 今日のニーズに合わせて適用可能なものにすると考えたときに、今後の体制案だと時間的に間に合わないし、普及促進を民間主体に任せきっているのもどうなのかと思います。
- 私どもで出した新しい領域にも人材に関しては、METI産構審との連携と書かせていただいております、今話に出た、中身がどうかという話はあるが、少なくとも産業構造と人材の方向性について協議の構造体として、お示しいただいているのではと解釈した。
- この中でセキュリティの話が出たが、私どもの中でもセキュリティは構築する上でのセキュリティや運用やクラウドサービスのセキュリティ、あるいはハードでも相当ソフトが先行しているので、そう意味でのセキュリティで横串のところがあるので、何らかの形で協議会に参画いただいて、例えばセキュリティという横串で関係性をしっかり定義しなければいけないのではないかと含めて、協議するのが良いのではないかとと思う。
- 新分野での人材については、ITSSの中という議論がありましたが、縦型の延長でとらえるのか、産業融合的な形で違うフレームワークで捉えるのかということも位置づけ、見せ方、整理論かもしれないが、協議会で整理するということがよいのではないかとと思う。
- たぶん、協議会の役割とか位置づけがきちんと整理できていないので、いろんな話が出てくるのかなと思う。イメージとしては最終的にはスキル標準自身も融合してくるという方向性がみえる図にさせていただくほうがいいのかなと思う。

<スキル標準等について>

- 推していくべきものはCCSFで、今までなかった個別最適解でなく、共通解が備わっ

ているものとして位置づけられる。そこがあるからこそ、いろいろなものと連携ができるように仕組みがようやくできてきていると思う。そういう面では表現の仕方として、CCSFやタスク・スキルディクショナリといったものを中心において、将来の人材像をどうするかということをおさえて、こういうのを作ると良いのではないかと思う。

- 社会構造の話が出たが、流動性、マクロ、今後の世界変化の流れがあり、これに合う最初の対応がCCSFとすると、CCSFがすべてにおいて一番上にあるというのはいずれもない。
- 今まで横串がとれてなかったのが、CCSFを作ると横串がとれました。品質が良いものが出来ているのでこれをベースに考えるといいのではない。世の中の動きや流れはあるが、CCSFからの視点がまだあるので、ここからいきましょう。個別のスキル標準からもう一回検討するのはやめましょうということです。
- IT, UI, ETの区分が今日的かというのは議論の余地があるが、ある種の整理のやりかたとしては今もそれなりに正しいでしょう、それも含めて見直しつつ、IT, UI, ETのそれぞれの拡張版があっても、個々人からすると、自分は何者なのだということを知ろうとした時に、いきなり融合人材ですと言われると、わけがわからない。CCSF参照してくれといわれてもハードルが高いかなど。
- ITSSのCFWとCCSFのCFWの差がないとすれば、どちらも今日的には合わない可能性があるから、そこは見直さないといけない。CCSFのCFWを見直さないといけないということになる。
- 人材像を考えるとというのは、産業構造の変化とか、その辺を議論して作る話と理解している。産構審とかもあつたが、産業構造の変化の議論なしに、人材像の話をして意味がないので、もし協議会で人材像のCFWの議論をするなら、そこも含めて議論しないと意味がない
- 人材の役割は、今までの仕事を類型化することということから、新しい分野に傾く人材はどうすべきかとの未来型に変わってきている。
- 産業構造からみてどうかという部分と、人材の面で仕事しているほうからみてもう一歩進んでこういう分野があるよねという整合がある、そこを議論する場合に、新しいロールと提案されたのかと私は理解した。それを最終的には、CCSFあるいは、CCSF追補版のようなもので、表現できるのか、そうではないのかは別の議論があるのと理解した。

以上